

病理細胞診室のインシデントの分析

◎森永 朝美¹⁾、久吉 将之¹⁾、吉田 知代¹⁾、石川 恵理¹⁾、井上 早苗¹⁾、児玉 千里¹⁾、浅野 敦¹⁾、奥田 清司¹⁾

大垣市民病院¹⁾

【はじめに】

公益社団法人・日本医療機能評価機構の報告では、2017年の医療事故報告件数は3,598件で年々増加傾向にある。当院では医療事故防止につなげることを目的に、インシデント管理システムセーフマスターを利用して医療安全に努めてきている。今回我々は、病理細胞診室から報告したインシデント事例について分析したので報告する。

【対象・方法】

2010年1月から2019年4月に病理細胞診室から報告したインシデント135件を対象とし、以下の①から⑤について分析した。

- ①年間の件数の推移
- ②当事者の職種
- ③当事者が技師の事例の病理検査経験年数
- ④検査段階
- ⑤解析部門で重大と判断された事例

【結果】

① 年間の件数の推移

年	2010	2011	2012	2013	2014
件数	1	0	0	1	3
年	2015	2016	2017	2018	2019
件数	0	10	62	47	11

② 当事者の職種

	検査技師	医師	看護師
件 (%)	69 (51.1%)	47 (34.8%)	1 (0.7%)
	その他・不明	システム・機器	
件 (%)	6 (4.4%)	12 (8.9%)	

③ 当事者が技師の事例の病理検査経験年数

年数	5年未満	5～9年未満	10～14年未満
件 (%)	50 (74.6%)	10 (13.5%)	0 (0%)
年数	15～19年未満	20年以上～	その他・不明
件 (%)	1 (1.4%)	3 (4.1%)	3 (4.1%)

④ 検査段階

	件数 (%)		件数 (%)
検体提出・受付	52 (38.5%)	診断	5 (3.7%)
検体処理・切り出し	26 (19.3%)	解剖	1 (0.7%)
包埋	8 (5.9%)	システム	6 (4.4%)
薄切	4 (3.0%)	その他	3 (2.2%)
染色	30 (22.2%)		

⑤ 解析部門で重大と判断された事例

	件数 (%)		件数 (%)
検体提出・受付	15 (65.2%)	診断	0 (0.0%)
検体処理・切り出し	2 (8.7%)	解剖	1 (4.3%)
包埋	0 (0.0%)	システム	1 (4.3%)
薄切	1 (4.3%)	その他	3 (13.0%)
染色	0 (0.0%)		

【まとめ】

以前はインシデント報告に対する意識が低く、重大性が高い事例のみ報告していたが、2016年9月より軽微な事例も報告するようになったため、年間の件数が増加した。検査技師が当事者となった事例では、病理検査経験年数が5年未満の割合が高かった。検体提出・受付でのインシデント発生率が高く、臨床医が当事者となる事例が多かった。

【結語】

インシデント報告は、アクシデントの発生要因を洗い出すこととなり、医療事故防止につながる行為である。今後、インシデント事例の共用・分析ミーティングを部内で定期的に行うこととしている。また、病理検査領域では不特定多数の臨床医が関与する場面もある。都度の注意喚起のみならず、医療安全課および中央手術室運営委員会との連携を深め対応していきたいと考えている。

【連絡先】0584-81-3341 (1281)